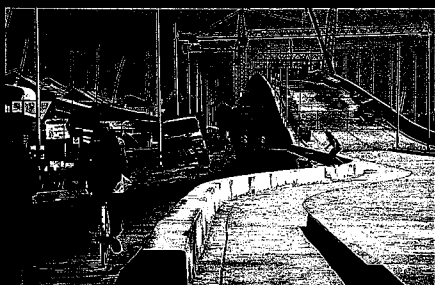


CAMBODIA, TOMORROW



貧しくとも明るく懸命に未来に向かって生きているカンボジアの子供たち…。日本人が忘れてしまったものを私たちに教えてくれる。

2008年11月、自主出版による「CAMBODIA 立岡秀之写真集」(幻冬舎ルネッサンス)を発行、そして、2011年1月に第2弾の立岡秀之写真集Ⅱ「Tomorrow」(風詠社)を出版いたしました。カンボジアの貧しい子供たちのキラキラした眼差しに惹かれ、10年近くの間カンボジア全土にわたり撮影してきた作品を写真集にまとめたものです。現在のカンボジアは子供や女性たちが働き手の中心を担い、国の経済復興の裏方として頑張っています。過去、日本にも当たり前にあった「日々、食べる為に働く姿」は、現在のカンボジアで見ることができます。そのようなシンプルなことがとても大切なことに思えます。生活苦のため幼い頃から働く姿、たくましく生きる姿、そして素朴で心優しい姿の中に、いつまでも忘れることができない笑顔がありました。自分自身、何かカンボジアの子供たちの助けが出来ないかと考えました。その結果、日本の皆様にカンボジアの作品をご覧いただき、カンボジアの子供たちに少しでも支援金を送ることが出来ればと考え、写真展の企画に至りました。

「CAMBODIA 立岡秀之写真展」は、東京展(2009年9月、東京有楽町 朝日ギャラリー)をかわきりに、名古屋展(2009年9月、栄・ナディアパークギャラリー)、三重展(2009年10月、松阪・ブックスホテル)、京都展(2011年4月、京都国際交流会館)、福岡展(2011年5月、アクロス福岡)、仙台展(2013年5月、仙台メディアテーク)と巡回展を開催してまいりました。会期中は多くの方々にご来場いただき、チャリティーにご協力いただきました。会場には募金箱を設置するとともに写真集やTシャツの販売も行い、それらの印税金もすべて義援金としてカンボジアに送らせていただきました。義援金の送り先は、親のいない子供、ストリートチルドレン、貧困にあえぐ子供たちなどが集まる施設です。施設の目的は、困っている子供たちに明るい未来が訪れるまで支援し続

けることです。復興の真っ只中、めまぐるしく変わり続けるカンボジア。子供たちはたくましく生きています。10年前に知り合った子供たちも、今は施設を出て自立し立派な大人になっています。子供たちの成長は、私にとって何者にも代えがたい喜びです。

今回の東京展Ⅱ(国際機関日本アセアンセンター)では、チャリティーは行いませんが、日・カンボジア友好60周年記念事業として開催いたします。私の13年に及ぶカンボジアで撮影した写真の中から、貧しくとも明るく懸命に未来に向かって生きている子供たちと、復興に向かって発展するカンボジアの今の姿を中心に展示します。モノが溢れた今日の日本の家族社会と重ねることで、私たちが忘れてしまっている家族のあり方を再度見つめ直すきっかけともなれば幸いです。

また、カンボジア大使館のコーナーとして、日本のカンボジアでのODAの活動を紹介し、日本が復興に深く関わっていることを日本の皆さんに知っていただくコーナーも併設しています。

立岡秀之(たちおか・ひでゆき)

Hideyuki Tachioka

1953年、三重県松阪市生まれ。

1997～2002年 ベトナム訪問。2002年からカンボジア訪問。

2002年、三重県展で最優秀賞受賞。

2003年、公募写真展「視点」で視点賞受賞。

2005年、第11回酒田市土門拳文化賞受賞。同年「文化賞受賞作品展」を山形県酒田市・土門拳記念館および東京・新宿二コソロンにて開催。

2009年、公募写真展「視点」で優秀賞(桑原史成賞)受賞。

同年、立岡秀之チャリティー写真展「CAMBODIA」

巡回展/東京・名古屋・三重・京都・福岡・仙台にて開催。

現在、全日本写真連盟三重県松阪四五支部会員、

松科会写真部三重支部会員、日本写真協会会員。